



新生児センター 年中無休 24 時間営業!!

新生児科医長 辺見勇人

中央病院の3階東病棟は新生児センターといって生まれて間もない赤ちゃんを専門とする病棟です。NICU（新生児集中治療室）と呼ばれることもあります。新生児センターに入院したことのない方はもとより、入院された患者さまの家族にとっても普段あまりお見せすることも説明することもない新生児センターのお仕事(ちょっとだけその裏側)を赤ちゃんの入院までの流れを中心にご紹介をしようと思います。



NICU（新生児集中治療室）の概要

当院の新生児センターには年間に約300~400人の赤ちゃんの入院があります。何らかの理由で予定より早く、小さく生まれてしまった場合や、どうしても避けがたい分娩時の問題、お産までに気づかれなかった赤ちゃんの病気が疑われた場合入院の対象となります。あらかじめリスクがあると分かっている赤ちゃんの場合、分娩に立ち会って処置をする場合もあります。

中央病院の新生児センターには、認可された新生児集中治療ベッドが9床、新生児病棟として36床の計45床のベッドがあります。そのほかにも愛知県だけで15以上の病院にNICUがありますが、それでもぜんぜん足りていません。生まれたものの、生まれた病院のNICUがいっぱいで入院できない赤ちゃんもいます。また、特殊な疾患、状況では病院により必要な器械や合併症を扱う他の診療科の関係で治療できる範囲が限られてきます。そういった赤ちゃんも搬送されてきます。当院では重い心臓病を除くほとんどの疾患を扱っています。

最近では赤ちゃんの安全のため、少しでもリスクのある妊婦さんは分娩施設と、NICUが両方ある病院へ搬送される傾向があります。今年度から中央病院には産科ができましたが、まだまだ小さい科でスタッフの人数も少なく、妊婦さんの管理や分娩は24時間の対応ができません。産科の今後の充実がわれわれNICUのスタッフの願いでもあります。

新生児センターが他の病棟と違うところは文字通り「年中無休 24 時間営業」なところ。とくに小さな赤ちゃんでは昼夜を問わず治療が続行していますし、いつ入院が来るかも分かりません。そのため、一般の病棟と違い夜中でもお正月でも看護師さんがたくさん(夜間では一般病棟の倍の人数です)勤務をしています。我々医師も通常の勤務とは別にいつも誰かが当直として病院に残り新生児センターを守っています。

病院の理念と基本方針

理念

私たちは
成長や発達に支援を必要とする人たちに、
最善の医療を提供するように努めます。

基本方針

- 心とからだの成長・発達に影響する子どもの疾患を総合的に診断し、予防と最新の治療を専門的に行います。
- 胎児期から成人までを対象とし、患者さんの目線に立ったやさしい安心できる治療を行います。
- 患者さんが自立した生活ができるよう、在宅支援や地域との医療連携を推進します。
- 成長・発達に影響する病気の原因追究および治療法の開発を、発

ある日のNICU 入院だ!!

入院が必要な赤ちゃんは時間に余裕がないこともしばしば。一刻でも早く赤ちゃんの治療を開始するために、病院や救急車ではこんなことが行われています。よくある日常の入院までの流れをストーリーにしてみました。

21:00 とある町の A 産婦人科で生まれた赤ちゃんの呼吸状態が悪いとのことで入院依頼の電話がかかってきました。すぐに電話が当直の医師に転送、生まれた時間、体重、生まれるまでの状況や現在の症状などを聞きます。

21:05 直ちに保育器、呼吸器、モニター、点滴など入院の準備が行われます。また、搬送用の保育器やおかもち(※1)内の物品や薬剤を準備、その赤ちゃんにあった設定を行います。

21:15 救急車(※2)の準備完了、すぐに搬送用保育器を救急車に乗せ出発。今回 A 産婦人科までは約 30 分(※3)かかりそう。

21:45 A 産婦人科に到着、すぐに診察、処置を行います。赤ちゃんはなんとか酸素の吸入だけでよさそうな状態で、必要な処置、モニターの装着をします。赤ちゃんの呼吸悪化の原因がどこにあるのか、先生にさらに詳しく状況をききます。

22:00 ご家族に現在の赤ちゃんの状況について説明、入院の承諾を得ます。赤ちゃんは酸素を流した搬送用保育器の中に入り、救急車に乗せます。同時に、新生児センターへ連絡、必要な機器、点滴など追加で準備が必要なものを伝えます。

22:15 救急車は A 産婦人科を出発。赤ちゃんにとって救急車の揺れは大敵。サイレンを鳴らして救急車は走りますが、まずは安全運転が第一。時にまわりの車よりずっとずっと遅いスピードでゆっくり走って帰ってくることもあります。

22:50 新生児センターに到着。レントゲンや採血の検査、点滴などの治療が直ちに行われます。

翌 1:00 初期の治療が終わり、徐々に呼吸が落ち着いてきました。検査の結果もそろいました。赤ちゃんのお父さんに来ていただき、入院の手続きのあと、病状や治療の説明を行います。

翌 2:00 やっとひと段落。仮眠しようと思ったそのときまた入院依頼の電話が・・・

このような入院の依頼がなくても当直医はいつも 24 時過ぎまでは薬の投与や呼吸の管理を、朝も他の医師が出勤する前から赤ちゃんの採血を行っています。その他、必要があれば夜中でも朝方でもずっと管理を行うこともあります。こんな日でも次の日は通常のお仕事が待っています。

生まれてきた赤ちゃんが健やかに、元気に育っていけるよう新生児センターが少しでも赤ちゃんのお役に立てれば、と日々がんばっています。

最後に、私の今年の初詣でのお願いです。(かっこ)の中の心は無視して読んでくださいね。「(せめて自分の当直のときだけでも)ずっと、(最低限この病院とその周りの)生まれた赤ちゃんみんなが元気で健康でありますように。」 ぱんぱん、ペコリ。

※1 おかもち (初期治療の 道具箱)



一般に「おかもち」とは出前などで用いられる食べ物を外へ運ぶときの桶の意味。ここでは救急車で出向くときに必要な、診察や処置の道具が詰まった「道具箱」の愛称。どこでも初期治療を開始できるように聴診器や人工呼吸のためのチューブ、点滴、薬剤、手袋などが赤ちゃんの大きさや症状に合わせて何種類も入っています。たぶん釣り道具入れっぽいが、だいぶ前に釣具屋で調達したか？誰も真実は知らない。

※2 新生児救急車 (県下で一台)

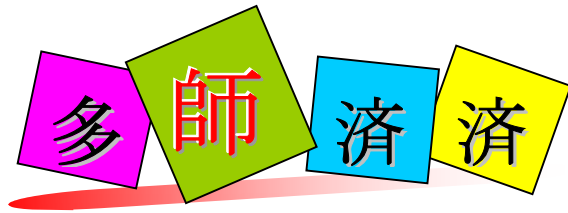


愛知県でたった 1 台の新生児専用救急車。よくみかける一般の救急車との違いは、搬送用の保育器を最大 2 台(双子の入院もあるのですよ)乗せるために大きなスペースがあいていることと、そのための電動リフト、保育器や器械用の追加バッテリーと 100V 電源、モニター、自動車電話、大きな酸素ボンベが搭載されています。

※3 搬送範囲 (1 時間以内 なら・・・)



基本的には依頼があればどこまででも行きますが、おおむね 1 時間以内が基準です。救急車で 1 時間あると、愛知県の渥美半島以外と、岐阜県の南半分、三重県の一部までは行けます。10 年以上前で高速道路が整備されていないときは高山からきた患者が中津川でおち合い救急車を乗せ変えて搬送したこともあったようです。



中央病院で歯科衛生士さんは、どんなことをしているのですか。

歯科衛生士の業務は、歯科診療の補助、予防処置、口腔衛生指導などです。一般の歯科と異なるのは、障害のある方の個々の特性を理解し、コミュニケーションの困難さ、医学的管理の必要性などを考慮して対応し、歯科治療への恐怖心がいっぱいで来院する患者さん一人ひとりに合わせて接することです。それによって安心感を与え、歯科診療がスムーズになり、その積み重ねにより患者さんと家族との信頼関係につなげることです。

「口腔ケア」の重要性がいわれています。

最近「口腔ケア」の効果が科学的に実証され、医療、福祉、介護の現場でその重要性の認識が高まっています。以前は、口腔ケア＝歯磨き、と考えられていましたが、現在は、口腔機能の維持・回復を目的としたケアも含め幅広くとらえられています。とくに高齢者や重症児のように免疫力の低下した方に対する口腔ケアは、誤嚥性肺炎の予防や摂食・嚥下機能の維持・リハビリテーションの意味をもち、QOL の向上や介護負担の軽減にもつながります。現在外来だけでなく、こぼと学園へ定期的に出向き口腔ケア法に問題はないか、開口が困難な場合にどうしたらよいかなど、病棟職員と協働で行っていますが、病院でも広げていけたらと思っています。

障害者歯科の「認定指導歯科衛生士」になられたそうですね。

昨年、日本障害者歯科学会よりコロニーでの 25 年のキャリアを評価していただき、障害者歯科分野における認定指導歯科衛生士に任命されました。全国で 22 名です。今後は、当院での業務ばかりでなく、重症児などと接する機会の少ない地域の歯科衛生士の研修を受け入れたい、歯科衛生士学校の学生の実習施設として後進の指導にも力をいれたいと思います。なお今秋、当院歯科の主管で第 26 回障害者歯科学会（大会長：石黒 光）が名古屋で開催され約 2 千名の関係者が参加しますが、これを機にこの分野の歯科衛生士の役割を広く理解していただきたいと考えています。



第 5 回 愛知県コロニー在宅医療研修・講演会のご案内

- 日程：平成 20 年 3 月 1 日（日） 午前 10 時～午後 3 時 10 分
 会費：無料（参加申し込み方法は、当院ホームページから申し込み用紙をダウンロードして、所定項目を記入し FAX して下さい）
 場所：愛知県立看護大学 6 F 講堂 名古屋市守山区上志段味東谷（HP から地図がみられます）
- 午前の部 10：00～12：40
 1）「神経筋疾患」（中央病院小児神経科医師：鈴木基正）
 2）「在宅人工呼吸療法（呼吸ケア）」（中央病院内科系病棟看護師：筧本秀之）
 3）「褥瘡ケア」（中央病院褥瘡認定看護師：木村智靖）
 午後の部 13：30～15：10
 4）「NICU 退院後に必要な在宅医療」（中央病院新生児内科医師：山田恭聖）
 5）「在宅医療に対する家族の考え」（患者さん家族、在宅看護相談室看護師：志知ゆかり）

※昼食はできる限り持参して下さい。（近辺にはレストラン等ありません）。

～問診票～

- ・出身地はどこですか？
犬山です
- ・コロニーに来てどのくらいになりますか？
26 年とちょっと
- ・趣味を教えてください。
音楽鑑賞（美しいメロディーならばジャンルを問いません）
- ・特技があれば教えてください。
特技とはいえませんが、人生下り坂なのに、ずっと食欲がおとろえないということかな
- ・猫と犬、どちらが好きですか？
以前は猫、今は心変わりをして犬です、
- ・マイブームになっていることは何ですか？
更紗模様などのアジアンテイスト
- ・最近、気になるニュースを教えてください。
派遣切り、メタボ関連ですね
- ・コロニーの好きなところ、お勧めの場所を教えてください。
初夏までウグイスが鳴く外周周辺

◆中央病院ホームページ◆

当院ホームページでは、患者さま向けに種々の情報提供を行っています。閲覧頻度の高いページは、コロニーライブラリー「こども医療情報」です。



<http://www.aichi-colony.jp/>